

# くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 2 1

開催地：八代市代陽校区

平成 19 年 8 月 28 日（火）、八代市代陽校区（会場：やつしろハーモニーホール）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

## 参加者数※

市内	17 名
市外	4 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p><b>【河川整備基本方針の説明について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会に出た質問・意見は今後どのような形で活用されるのか。</li> <li>・H18年の川内川の洪水の時に降った雨が球磨川に降ったら、横石で 12,000m<sup>3</sup>/s 流れるとのことだが、実際にそのような規模の雨が降ったら基本高水流量を超えてしまうが、どう対応するのか。具体的にダムでどのくらいカットするのか。</li> <li>・現状で横石地点で 9,900m<sup>3</sup>/s の洪水を流すことができるか。</li> <li>・ダムを造った場合には、萩原あたりの水位はどのくらい下がるか。</li> <li>・基本高水が高いほどいいと思うが、整備にはいろいろな方法があり、球磨川の自然の価値をどのくらい認めるかが工事の基本的な考え方になるのではないか。自然の価値を認めないと意味が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会でいただいたご意見は、河川整備計画や今後の川づくりの参考にしていきたいと考えています。</li> <li>・ダムの洪水調節にも限界があるように河道の流下能力にも限界があります。 気候変動等による集中豪雨が頻発している状況も踏まえ、基本方針で想定している規模を上回る洪水や施設の整備途上での洪水の発生も想定し、ハード対策と併せてハザードマップの整備等のソフト対策にも重点を置き、被害の最小化に向けた取り組みを実施していく必要があると考えています。</li> <li>・現在の河道及び堤防の状況では、横石地点において 9,900m<sup>3</sup>/s の洪水を安全に流すことはできないものと考えています。</li> <li>・一般に、ダムによる洪水調節効果は広域的に及ぶものですが、その際の水位の低下量は、ダムから遠くなるほど川幅が広がることも相まって相対的に小さくなります。 ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくことになります。 ダムを位置付けることになる場合には、水位がどれくらい低下するのかを含め、施設の効果等についてお示していきたいと考えています。</li> <li>・ご意見のとおりだと思います。それぞれの河川の特徴等を踏まえ、治水、利水、環境を総合的に考えた取り組みが必要であると考えています。</li> </ul>
<p><b>【球磨川の治水対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市房ダムが出来た S35 以降もダムが出来たのにも拘わらず洪水の数が増えているのは何故か。</li> <li>・S40 年以降に萩原の堤防が破堤したことはあるのか。萩原堤防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水の発生そのものは自然現象であり、ダムの有無に依らないものと考えています。昭和 35 年に市房ダムが完成してから洪水が多い理由は、洪水を引き起こす降雨が多く発生していることなどが考えられます。</li> <li>・昭和 40 年以降、萩原の堤防が決壊したことはありません。</li> </ul>

<p>の付近では高田・豊原が浸かったという認識だが、そういうことがあったのか。高田が浸かったなら今のスポーツ公園のところなのか。</p>	<p>また、昭和40年の洪水では現在のスポーツ公園の辺り一帯が浸水しました。</p>
<p>・S40年の水害で萩原の堤防が破堤したのは管理ミスだと考えている。堤防の一部に穴があいていたのを見逃していたのが一番の原因ではないかと思う。</p>	<p>・常日頃から河川管理者として堤防等に異常がないか巡視点検を行っています。なお、当時の状況の詳細については現時点ではわかりませんが、今後とも堤防の管理が適切に実施されるよう努めて参ります。</p>
<p>・7、8年前に萩原堤防の現地立会で、S40年洪水時より水位が10cm上がると危ないと聞き、恐ろしくてびっくりしたことがある。</p>	<p>・今後、ご指摘も踏まえ、国として分かりやすく正確な説明ができるよう、引き続き努めていきたいと思ひます。</p>
<p>・S57年の水害では、瀬戸石でも駅舎が根こそぎやられるなど相当被害がひどかった。地元の方の話では、もう既にダムが危ないという時に一度にゲートを上げたため、水が滝のように流れたと聞いている。瀬戸石ダムの管理は国土交通省とは別だと思うが、ダムの開閉についてなにか指導をしているのか。</p>	<p>・瀬戸石ダムは電源開発(株)の管理ですが、ダムの操作規則を作成する際には、河川管理者である国も内容を確認しています。これまでも操作規則に基づき適切な操作がなされてきたと認識していますが、引き続き適切にダムの操作が行われるよう、河川管理者としても指導していきたいと考えています。</p>

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。